

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070501166		
法人名	社会福祉法人 敬友会		
事業所名	さくらの里グループホーム		
所在地	群馬県太田市中根町295番地1		
自己評価作成日	令和3年12月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の状態を把握し、個別に接し方を考慮しながら、ケアを行うようにしている。個人の気持ちを尊重し、落ち着いた気持ちで安心して生活が送れるように心配りしている。静かな田園地帯に隣接しているので、ゆったりとどかに毎日を送っていただくことができる。職員一同が気持ちを穏やかに保ち、入居者が伸び伸びとした気持ちで過ごせますように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者の意向を尊重して、自らの意思でしたいことを支援し、見守る取り組みを行っている。例えば、カラオケをしたい人には自由に歌ってもらったり、日記を書き続けたい人は気が済むまで書いてもらったりしている。利用者の生活歴の延長上に事業所での生活を実現する取り組みが行われ、法人代表が大切にしている「人情」という思いの具現化が図られている。また、コロナ禍ではあるが、医師の指導のもと、家族が居室で利用者との貴重な時間を過ごせるよう支援するとともに、事業所内で看取りチームを作り、医師の助言のもと全職員でその経験を積み重ね共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所がめざす地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念を、職員全員で考え作りあげている。	開設3年後に、地域密着型サービスを意識して、より分かりやすい言葉の理念に変更した。ホールに提示して、毎朝の申し送り時に理念を職員で確認している。	分かりやすい理念だけに、各職員の捉え方の共有を図ることに難しい面がみられるので、理念について全職員で話し合う機会を作り、更に共有化して実践に繋がられることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、新型コロナウイルス感染症対策として、地域との関わりや交流を避けている。	コロナ禍のため、現在は、地域とのつきあいが困難になっている。感染が収まった時には、近くの幼稚園や小学校との交流を再開したいと考えている。また、ボランティアの受け入れについても、同様に考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、新型コロナウイルス感染症対策として、地域との関わりや交流を避けているため、地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		コロナ禍で、運営推進会議の開催は行っていない。利用者の状況など、地域に更に知ってもらうためにも、コロナ感染が収まってからは、隣接する小規模多機能ホームと一緒に、区長・民生委員・利用者家族・市職員等のメンバーでの開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には利用者の事情等について、相談や介護保険の申請代行等で伺っている。	利用者の介護更新手続き・運営上の疑問・利用者状況等、多岐にわたって相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが身体拘束については理解してケアに取り組んでいる。	利用者の転倒防止対策として、ベッド柵をしなければならぬ時は、家族と相談して、書面で同意をいただいた上で取り組んでいる。玄関は施錠しているが、外出をしたい利用者には職員が外出に付き添うなど、極力本人の納得を取りつける努力を重ねている。	身体拘束をしないケアについて、職員間で話し合いさらに理解を深めるための取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持ってはいないが、スタッフ全員が、虐待のない介護が出来るように意識して利用者に接していくことを常に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やケアマネは研修で学んでいるが、特にスタッフ間では学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の方針やケアの取り組み方、医療とのかかわり方について説明し、対応可能な範囲を伝えている。利用者の状態の変化により契約解除に至る場合は、本人を交えての相談が難しい場合、家族等と対応方針を相談している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に投書箱を設け、利用者の家族、外部の方々からの意見や要望を伺うことが出来るように設置している。そのほか家族からの意見や要望がある時は、常時、管理者やケアマネ、スタッフ等に直接話していただけるような雰囲気を持てるよう心がけている。	利用者家族や外部の意見をいただけるよう、玄関に投書箱を設置している。コロナ禍なので、利用者家族には利用者の生活の様子を、面会時や電話等で機会あるたびに報告して、意見が言えるような場面づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決められた職員会議や必要と思われる時に、運営に関する意見や提案を職員側より聞く機会を設けている。	職員会議を課題等が把握されるごとに開催して、職員から運営に関する意見を聞く機会を設けている。職員間の意見の相違については、管理者が直接職員相互から意見を聞き、意見調整を行う対応を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が介護福祉士などの資格を得た時には、資格手当を給与につけたりして、モチベーションを高めるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を認知症介護基礎研修あるいは介護実践者研修の受講や法人内外での研修に参加してもらったが、現在は行われていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の東毛地区研修会にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染症対策として、交流を控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体の状態や精神的な状況、困っていること、不安なこと等の要望を伺いながら、信頼関係を築くことが出来るように努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの経緯を良く聞き、困っていることや不安なこと、求めている事を聴く時間を取り、どのような対応やサービスが出来るか話し合い、本人や家族の不安が少しでも減るように、家族との関係作りに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所まえに、家族から本人の心身状態や特に困っていることなどを聴き取り、本人や家族が必要としているサービスを支援できるように見極め、その対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者と一緒に過ごすことで、悩みや喜び、悲しみを共有するようになり、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは家族の気持ちを考え、利用者の暮らしぶりについて、きめ細かくお伝えし、利用者を共に支えていくスタンスであることを話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で顔なじみのあった友人が面会に訪れたり、または近くへ地域の場所を訪問することができていたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策として、関係継続の支援を控えている。	コロナ禍で、利用者の馴染みの人や場所の継続支援が難しい状況である。そのため、家族の協力を得て、自宅で少数の親戚と交流できる機会を作るなど、少しでも本人の希望の実現に向けて支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握できるよう、スタッフが情報を共有し、和やかな生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方であっても、必要に応じて後のサービスの相談や経過を伺いながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、どのように過ごしてきたかを聞き取り、これまでの生活歴の中から、利用者にとっての望む暮らしが把握できるように努めている。	利用者の生活歴や日々の会話・表情等から、思いや意向の把握に努めている。利用者の希望に沿って自己決定できるケアに努め、特にその人が決めたことを否定しないで、意思を尊重してやりたいことの実現を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人からの話しの中から、どのような暮らし方をしてきたかを知り、また家族や関係者から様々な情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活のリズムをつかみ、心身状態を把握しながら、日々の暮らしの中で、本人の有する力等の現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者が満足できるような暮らしを提供できるようにするためには、どのようなことが必要か、どのようなケアが適切かを、本人、家族、スタッフと話し合い計画を作成できるように努めている。	ケアマネージャーは職員が日々記録しているケアの個別票を確認して介護計画を作成し、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。作成した介護計画は、全職員に供覧し、サービス内容の確認等を行っている。	介護計画作成手順で更に、チームでの取組みが出来るよう、検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個別記録に、食事量、水分量、排泄状況を記入し、個別記録には日中や夜間の様子やケア等を記録し、当日の勤務のスタッフが勤務に入る前に申し送り確認し、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症対策として、現在は、地域資源との協働ができにくくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を優先し、希望にそえるように努力しているほか、かかりつけ医との連携をはかり、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者7名は、協力医に月2回、訪問診療を受けている。他の方は、家族の協力で受診の支援が行われている。歯科は、必要に応じて訪問診療が行われている。嚥下機能低下がみられる利用者は、看護師の関りを増やして往診医との連携を深め、安心出来る環境が作られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職に、日々の関わりの中で捉えた情報や状態像を報告し、個々の利用者が適切な処置や看護が受けられるように支援している。受診が必要であれば、迅速に対応するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の情報を医療機関に提供している。現在は、コロナウイルス感染症対策として、面会は禁止されているため、施設のケアマネージャーが状況を病院の看護師や相談員から伺っている。退院時には、病院からの情報提供をもらい、退院後のケアに役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時には、すぐに対応していただけるようにかかりつけ医(協力病院)と連携を図っている。なお施設での看取りを希望されている家族とは、地域のかかりつけ医との連携をはかりながら、施設でできることを共有し、できることの中の最大限の支援にスタッフ一同取り組んでいる。	看取りの希望がある家族には、書面で同意を得て、取り組んでいる。看取り段階では、協力医から助言を得て、職員一丸となって家族の負担軽減の支援が行われている。看取り終了後は、職員間で振り返りを行い、職員の精神的ケアにも繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対策として、不定期であるが、消防署より心肺蘇生の講習を受けていたが、現在は新型コロナウイルス感染症対策として、行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災非難訓練として、年に2回ほど、職員と利用者、または消防署と連携を図り行っている。夜勤帯の避難訓練も夜勤者一人対応での訓練として、不定期ではあるが行っている。しかし現在においては、新型コロナウイルス感染症対策として、行われていない。	隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と連携して、年2回同時に火災避難訓練を実施している。その際に避難経路の見直しをする等、災害に対する実践的な取り組みを実施している。備蓄については、法人内の状況を確認途中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の介護支援の中で、それぞれの利用者に対する適切な対応や言葉かけができるように職員間で話し合いながら、対応している。	職員は、利用者と日頃のコミュニケーションを取りながら信頼関係を築き、利用者の思いの尊重を心かけている。特に、トイレ誘導や入浴の際に個々の利用者の誇りや羞恥心を傷つけない対応を職員間で話し合い、統一したケアに繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを汲み取れるよう普段の表情や話す言葉の中から望む生活を推測し、可能な限り納得いただけるような生活を送れるよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や体調に配慮しながら、個別ケアを中心とした支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者は、訪問美容師に個々にあったヘアスタイルで散髪してもらっていたが、新型コロナウイルス感染症対策として、しばらく訪問を控えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歯の良い利用者や、柔らかい食材しか食べられない高齢で認知症度の高い利用者などに別れるため、個々の利用者の状態に応じて声かけを行い、食事が楽しいものになるように支援している。食事を介助で摂取している利用者も食事が楽しみになるように努力している。	毎日の食事は、隣接している特別養護老人ホームの厨房で調理したものを利用者に提供している。その際に、事業所内で嚥下や咀嚼機能に合わせた形態に加工して提供している。お誕生会や季節の行事食等は、独自に事業所内で準備して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックしている。食事は法人内の栄養士が作成した献立表により、調理室で作られたメニューを当施設のキッチンで個々の利用者が食べやすいように手を加えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じて、食後の口腔ケアを促している。自ら行える利用者や介助の下で行う利用者、または拒否する利用者もいるため、可能な範囲で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表より、時間を見計らってトイレ誘導したり、トイレに行きたいしぐさや言葉、表情からトイレの場所を案内し必要に応じて介助や見守りを行っている。	利用者の排泄状態に応じた介助を心がけて、常に利用者の様子を確認して、トイレ誘導を行い見守る中で、トイレでの排泄を促している。個々の利用者のペースを大切に介助に努め、自立排泄の実現に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や牛乳、野菜ジュース、ヨーグルト、乳酸菌飲料等を取り入れて摂取している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	あらかじめ、入浴の予定はあるが、本人の希望により入浴は出来る状態となっている。ときには、利用者の状態により、関連施設の機械浴を利用し、安全な入浴が行えるようにしているが、現在は新型コロナウイルス感染症対策として他施設での機械浴を控え、清拭や足浴等を施設内で行っている。	週2回、職員2人体制で入浴を実施している。浴槽のお湯の温度や浸かる時間は、利用者の意向を尊重している。また、季節に合わせてゆず湯や好きな入浴剤を使う等、楽しめる取り組みを実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体を休めたい時には、それぞれが自分の居室で横になったり、テレビや本をみながら休息をとっている。就寝時間は、個々の利用者によって違いがあり、安心して眠れるように声掛けや誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の内容を把握し、薬の変更があったときには、体調の変化がないか様子観察を行っている。粒上の内服薬が困難な時には、粉末状に変更してもらうなどの対応を行っている。粒のまま服用しなければならぬ場合や飲み込みづらい利用者は、トロミを使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや植物の手入れ、個々の生活歴や能力から勘案してできることや、やりたいことを見つけながら共に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、できる範囲での家族の要望や本人の希望を叶えられるよう支援している。	現在は、事業所としての外出は控えている。家族の希望がある時は、感染対策を講じての外出を支援している。その他、隣接している施設の花壇や畑で小鳥を眺めるなど、季節を感じてもらおう外出の支援を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望により、所持して安心して過ごすことが出来る方は、自室で管理しているが、お金を持つことが困難な利用者は、小口現金を施設が家族から預かり、職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、自宅や親戚、友人への電話を自由にかけられるように支援している。また、手紙のやり取りも行いう事が出来るよう援助している。家族と本人との希望で携帯電話の所持もしている方がいますが限られた人との通話となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の立地が田園地帯であり、野鳥が水田の中にきたり、電車が通るのを眺めたりして、懐かしいのんびりした生活空間となっています。	事業所の共用スペースには、利用者に関心をもってもらえる小物を置き、会話が増える工夫を行っている。また、食堂の座席は、利用者が落ち着いて過ごせる場所を考慮する取り組みを行い、安心して過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士での会話が弾むように、あるいは本人が落ち着く場所などを常に把握しながら、個々の利用者が気持ちよく過ごす事ができるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族の希望により、使い慣れた家具や時計、ぬいぐるみや小物などを持参、居心地良く生活できるように工夫している。	利用者の居室は、一人ひとりの意向を尊重して職員と一緒に整えている。利用者の好みの家具や置物・掲示物等、居心地の良い生活空間作りを工夫して、安心して過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりをつけ、必要時には掴まれるように安全を考慮している。床を木製にしてぬくもりのある、危険の少ないかたちをとっている。		